

ISSN 1340-3559

# 三重自然誌



第14号

---

2014.12

三重自然誌の会

# 目 次

---

伊賀盆地のトンボ18年間の調査記録 .....	浅名正昌	1
三重県で初めて確認されたヤマコウモリとそのねぐら .....	佐野 明	29
松阪市の里山, 岩内地区の蝶相の変遷 .....	中西元男	31
三重県南部小島嶼の蝶 .....	中西元男	35
三重県における絶滅危惧植物の分布に関する最近の知見 .....	山本和彦・市川正人	37
三重県における水草の分布記録 .....	中 優	48
三重県における軟体動物(貝類)の分布記録 .....	中 優・中野 環	49
三重県における小型サンショウウオ類の分布状況 .....	清水善吉	51
三重県におけるナガレタゴガエルの生息状況 .....	清水善吉	62
三重県におけるカワネズミの分布状況 .....	清水善吉	65
家屋に侵入したヤマネの記録 .....	清水善吉	69
三重県におけるニホンモモンガの分布状況 .....	清水善吉	72
三重県におけるカヤネズミの分布 .....	清水善吉	76

---

## 表紙イラスト解説 ～アキアカネ～

赤とんぼの名前で親しまれている仲間の代表種がアキアカネである。田んぼの上を赤トンボの群れが浮かぶように飛んでいる風景を、秋の夕暮れの思い出にお持ちの方も多であろう。このトンボは、梅雨時の水田で羽化すると暑い夏を山の上で過ごし、秋になると麓に降りて産卵する習性をもつ。赤とんぼ(と人)の避暑地として有名な御在所岳では、40年ほど前から赤とんぼのマーキングが続けられており、毎年1万匹前後がマークされている。それらの再発見例は多くないが、およそ100km遠方で「G」マークのトンボが見つかったこともある。このアキアカネが、最近、急に姿をみかけなくなったと云われ、田んぼの中干しが羽化時と重なる、秋の田んぼに水がないので産卵できない、新型の農業の影響など、いろいろな原因があげられている。とくに、新農業の使用が始まった時期とトンボが急減した時期が2000年頃で一致することが明らかとなり、ヤゴにも優しい農業の開発が期待されている。

イラスト・清水千佳子 文・清水善吉